

Talents

「キャリア・ナビゲート」で出会った
彼女たち

重原 惇子

特定非営利活動法人参画プラネット常任理事
キャリアアドバイザー
名古屋文理大学情報文化学部PR学科講師
名古屋市立大学人間文化研究所特別研究員

「キャリア・ナビゲート」で出会った彼女たち

重原惇子

「キャリア・ナビゲート」とは

NPO法人参画プラネット（以下参画プラネット）が行う自主事業のひとつに、キャリアデザイン事業があります。この事業は女性の再チャレンジ支援プロジェクトとして①「私のキャリア発見塾」②「キャリア・ナビゲート」③「ちょっと先行く先輩トーク」という三つのプログラムを展開しています。①については、伊藤静香さんと中村奈津子さんの原稿を参照していただきましょう。③は、2008年2月を初回として、子育て、仕事、学びなどの先輩からのメッセージを伝える月一回開催のセミナーです。②の「キャリア・ナビゲート」は、名古屋市男女平等参画推進センター（以下、センター）を会場にして開催する、ひとり50分、1500円の予約制個別カウンセリングの名称です。第2・4水曜日午後1時から4時の間に3つの枠を設定し、託児も利用できることとしました。キャリア・ナビゲーターは林やすこさん（放送大学/大学院へのチャレンジ担当）、渋谷典子さん（大学院入学のサポート担当）、重原惇子（あらゆるキャリアのアドバイス担当）の3名。ここでは、私がキャリアアドバイザーとしてカウンセリングを担当した女性たちのケースをお伝えしようと思います。

まず、予約者には事前に以下のような4枚のシートを渡し記入の上持参してもらいます。

シート1：私の人生振り返りシート

生まれてから今までの自分の人生を、印象に残ったできごとや言葉などで表現し、幸福度も数値にします。嬉しかったこと、嫌だったこと、小さい頃の夢などを思い出しながら記入することによって、自分の人生を客観視することができます。

シート2：キャリアの棚卸しシート

どんな仕事をしてきて、何ができるのか、得意なのかなどを記入してもらいます。職務経歴書を書く際の参考資料となるものですが、やはり自分自身の職業キャリアを振り返るきっかけになります。

シート3：スキルチェックシート

パソコンや英語といった技術的能力、社会性や情操性を含めた人間関係調整能力、創造性や実行力などを自分で五段階評価してもらうものです。自己評価なので、自己資源に対する客観的評価や自己肯定感の程度をみることができます。

シート4：価値観シート

自分が働く時に一番大切にしたいもの、目標を一位から三位まで挙げてもらいます。たとえば、家族・お金・自身の成長・社会への貢献など、何でも構いません。職業選択時に最も重視するもの（キャリアアンカー）の自己認識を明確化するために記入してもらいます。

これだけの作業をするとすると、1～2時間はかかります。自分と向き合うその時間がとても重要なのだと相談者に説明するところから、「キャリア・ナビゲート」が始まります。

この事業は、平成18年度にスタートしました。安倍政権の下、キャリア支援、再チャレンジ支援が声高に叫ばれ、各自治体においても女性の就労支援策がさまざまに講じられていた頃です。私たち参画プラネットの理事は、全員が再チャレンジした者ばかりです。それぞれが悩み、決断し、仕事を再開したという経験を持っているのです。当時の企画書にはこう記してあります。『出産・育児などで、仕事を辞めた主婦たちや、働きながらも転職や就学を考える女性たち、就職を目指す学生たちといった、人生における次の段階を目指す人たちを応援することを目的とする』。次の段階へ一歩踏み出したい女性へのサポートが企画の意図でした。

根底にはやっぱりジェンダーが

平成19年度の利用者は35人。リピーターやお友達の紹介で来たという人もいました。

「こんにちは、重原です。どうぞおかけください」と笑顔でクライアントの緊張をほぐしながら、観察開始です。髪型、メイク、服装、持ち物、挨拶の声、視線。全神経を集中させて、相手の情報を受け止め、分析し、質問を重ねていきます。クライアントの情報を効率的に把握するためにも4枚のシートは貴重なデータです。クライアントの要求に応える時間は50分しかありません。この短い時間にいかに満足してもらうかが勝負です。個人シートへの記入も相手の許可を得ながら進めます。持参してもらった4枚のシートは、ほとんどの人が新鮮な体験だったと肯定的に受け止めてくれました。キャリアカウンセリングであっても、クライアントが自分自身を深く見つめることがスタートだと確信する瞬間です。実にさまざまな年齢、背景の女性たちが訪れてくれました。「キャリア・ナビゲート」という名称ですから、職業そのものについて悩んでいる人が来るのは当然ですが、もっと曖昧な部分で悩んでいる人も多いと気付かされました。

Aさんは一児の母。「私、息子に『ママは輝いているね』と言われたいんです」と話し始めました。結婚前の職場では地位も責任も与えられ自信を持って働いていたけれど、転勤族の妻となり、母となって各地を転々としてきたと言います。「こんなに幸せな生活なのに、不満を言うてはいけませんよね」と微かに笑う彼女は、恐らく、この不満を初めて口にしたのでしょう。

「だって、あなたは心に違和感があるから、ここに来てくれたのでしょうか？」という私の問い掛けに、はらはらと涙がこぼれました。なんだかすっきりしない自分、息子に認められたい自分、かつてはキラキラしていたはずなのにくすんでしまった自分。今のその気持ちをまず受け入れてみましょう。その上でパートナーに自分の気持ちを伝え、そこからスタートしてみてもいいかと提案しました。学習でも仕事でも、自分が望めば、あなたにはあなた自身を前進させる権利があるというメッセージも、伝わったでしょうか。

元気なBさんは40代、夫の経営する事業を手伝っています。「結婚してからずっと経理を任されてきたんですけど、このまま年を取るのもなんだかイヤだなと思って」キャリア・ナビゲートを受けに来たと言います。コンピューターを基礎から学びたいと専門学校入学を考えているようです。ふと参画プラネットのスタッフが先日卒業した女性向け職業訓練コースを思い出しました。たしか明日が今期の募集の締切日のはず。直接問い合わせるように連絡先を教えました。それから数ヶ月後、「今日、卒業式でした！」と彼女がセンターを訪ねてくれたのです。聞けば、あれからすぐ申し込み、3ヶ月間毎日通学したとのこと。最初は無理だろうと高を括っていた夫も、毎日通う彼女に何も言わなくなり、子どもたちは資格試験の勉強に必死の母親を見て「なんだか、ちょっと見直したみたいです」と嬉しそうでした。

誰からも評価されず、それが当たり前だと思っていた女性が、ふとしたことから社会に一步踏み出し、努力し、認められた経験は何物にも代えがたいはず。そのきっかけ作りのお手伝いできたかと思うと、私もとても嬉しくなりました。

まさにジェンダー規範の中でもがいているAさんであり、行動することで無意識のうちに家庭内のジェンダー意識を少しずつ解決していったBさんです。

参画プラネットが個別のキャリアカウンセリングを行う意義のひとつに、ジェンダーの視点を持ったアドバイスができるという点があると考えます。また、センターで開催することによって、館内にあふれるジェンダーやDV関連の情報に触れることができ、クライアントは何気なくチラシに目をやり、本を手にとっています。つまり、自分でも理由がわからずもがいている人にこそ、このキャリア・ナビゲートを利用してほしいと思うのです。なぜなら、その理由の大半は女性問題として説明できるからです。

自分を整理して語ること、ぼんやりした不満でも口に出すこと、この2点をクリアできた人には、あなたの今の苦しい状況は必ずしもあなたのせいではないと伝えます。それは、固定化した性別役割分担意識や偏ったジェンダー規範によって規定されている社会に問題があるのではないかと説明するのです。すぐに状況が好転するわけではありませんが、今の苦悩の原因をある程度理解できた人たちは、見違えるように明るい表情で帰っていきます。

女性の総合的なキャリア支援

Cさんは、化粧品会社に10年勤務していたベテラン。結婚退職の後、今は子育て真っ最中です。「でも、何か始めたいんです」と彼女は訴えます。教えること？デモンストレーション？質問を重ねるうちに、メイク講座に興味があることがわかりました。だったら自分で売り込んでみたらとアドバイス。彼女のスキルを生かした「元気のでるメイクセミナー」企画書を書き、生涯学習センターなどに電話をしてプレゼンに行くのよと背中を押しました。彼女のすごいところは、アドバイス通りに実践したこと。ある生涯学習センターの講師を皮切りに、さまざまな場所で彼女の名前を目にするようになりました。センターでも名古屋市主催事業で講師に招かれています。次はどんな展開を見せてくれるのか、ほんとうに楽しみです。

Cさんのように、起業したい人、今の職場環境に不満を持ち次の展開を考えている人、希望の職種に就く方法を知りたい人なども多く、できるだけ希望の情報を伝えられるよう、私たちにも情報収集は欠かせません。年齢を重ねている女性で仕事を探している人も大勢いますが、こういった個別カウンセリングで自分の現状を把握し、女性の再チャレンジ支援プログラム「わたしのキャリア発見塾」のような支援プログラムとリンクさせて、女性たちのチャレンジ支援を図っていきたいと考えています。その意味で、「ちょっと先行く先輩トーク」は、転居、在宅ワーク、起業、子育て、資格取得、NPO、社会人入学、地域活動などのキーワードで、先輩が経験を語るというセミナーなので、気軽に参加してもらえ実践事例報告会といえるでしょう。

厚生労働省の「生涯キャリア支援と企業のあり方に関する報告書」には、「生涯のキャリア支援の必要性」について以下のような提案があります。「生涯キャリア支援」の視点に立って、働く者のキャリアのあり方を見直していくことが必要。見直しの主なポイントとしては、(1)働く者のキャリアの自立化支援、(2)キャリアの転機・節目における客観視の機会やまとまった能力開発機会の提供、(3)再チャレンジできる社会づくり、(4)ライフステージ等に応じた多様で柔軟な働き方の実現、(5)ワークライフバランスの実現」(2007 厚生労働省「生涯キャリア支援と企業のあり方に関する研究会」報告書¹より)

「キャリアの転機・節目における客観視の機会」とは、キャリア・ナビゲートの目的の一つであり、「ライフステージ等に応じた多様で柔軟な働き方の実現」は、参画プラネットが具現化している「新しい働き方」そのものであるといえます。これからも「キャリア」という視点で、さまざまな女性たちを応援していきたいと考えています。

¹ 厚生労働省「生涯キャリア支援と企業のあり方に関する報告書」

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/07/h0720-6b.html>